

世界遺産調査団の二名が来島

◇西部林道、ヤクスギランドの質の高い自然を評価
◇大株歩道の劣化と早急な対策を指摘

この調査は、平成五年の世界遺産登録時に、「管理計画が策定されておらず関係機関の連携も不十分なので三年後の管理状況を点検する」と決められたことに基づくもので、十月十八日から三日間、国際自然保護連合の委嘱したレス・モロイ、ピーター・ヒチコックの両氏が来島しました。滞在中、公共施設、縄文スギ歩道、ヤクスギランド、西部林道などを視察し、屋久島世界遺産地域管理計画に基づく保全状況を点検しました。調査後のコメントでは、大株歩道が登録時より荒れているなどの指摘があった反面、



縄文杉を視察する
ピーター・ヒチコック、レス・モロイ両氏

西部林道については世界遺産の中でも高い品質として評価を受けました。この調査結果は、十二月に

自然休養林情報

新『苔の橋』はどんな形に？

ヤクスギランドのつつじ河原の近くにある苔の橋は老朽化がひどいため、来年度架け替えることにしています。平成4年から進めてきたランド内の橋の架替えは、この橋で終了することになります。

新しい橋は、川幅が狭いことから焼磨仕上げの木材を使った栈道タイプのもので現在の橋のすぐ上に作るようにしていますが長く親しまれてきた最後の吊り橋の架替えなので、ぜひ皆さんの要望を取り入れて行きたいと思っています。ハガキ、FAX、電話等での **ご意見をお待ちしています。**

質問やご意見は
担当の下池まで。

(締切：11月末日)



イタリアで開かれる世界遺産委員会に報告されます。
(この記事の詳細を裏面で解説しています。)

島の内外の方への 森林教室・研修に協力

十月一四日、屋久町内の小学五年生八八名を対象とした森林教室が、ヤクスギランドなどで開催されました。

ランドでは、環境庁や屋久町職員と共に山下自然遺産保全調整官が講師となり、林内の植物や自然のすばらしさ等について学びました。

この他、東京の東洋工学専門学校建築エコロジー科屋久島実習での、保全センターの役割の講義や、国際協力事業団(JICA)研修員一八名(アルゼンチン他一七カ国)を受け入れて、営林署と合同で森林の管理・保全に関する視察研修も実施しました。

NHKの全国生放送で 保全センターの活動が紹介される

十月十二日、衛星第二放送で五時間にわたって屋久島の自然が紹介されました。

放送の一番手はヤクスギランドで、ランド内の森林と共遊歩道や吊り橋などの整備施設が放映されました。

また、対談に参加した日下田屋久杉自然館長には、洋上アルプス(前号)の台風十九

屋久島の植物



サザンカ
(つばき科)

常緑小高木。樹皮は灰白色で葉は互生・長楕円形で革質。枝先に平らに開く花弁五枚の白い花が咲く。ヤクスギランド周辺では今、花の少ない時期に白い花が一際目立っている。
暖帯南部の山口県、四国、九州に分布し、ツバキと同様に古くから栽培され、種々の色の園芸品種がある。

モニタリング、ヤクスギ 樹勢回復など、いよいよ本番

〈世界自然遺産保全緊急対策〉
昨年度から林野庁で実施している標記の事業が今年も秋に本格化しました。

モニタリングは、毎月継続して採水している森林の水質調査のほか、植生調査を十月からヤクシマダケ地帯や高層湿原で、登山者の入込み調査を今月初旬に主要な登山口で

実施しています。

また、ヤクスギの樹勢回復事業では、IUCN調査団から指摘のあった大株歩道沿いのスギ等の被害状況を専門家に診断してもらうほか、紀元スギ、弥生スギなどの樹勢回復事業を実施します。

屋久島営林署長がかわりました

一〇月一日付け
新署長 小島 孝文
(林野庁計画課より)
前署長 小松 敬
(農林水産省へ)

洋上アルプスのアンケートを実施

先月、本紙に関するアンケートを実施しました。様々なご意見をいただき、誠にありがとうございました。アンケート結果は、紙面の充実にも有効に活用すると共に本紙で紹介していきます。

世界遺産調査団屋久島入りの経緯

1. 世界遺産登録後の動き

平成5年の登録時に世界遺産委員会で①管理計画の策定，②管理のための調整システムの確立，を促されたことを踏まえ以下のような関係機関の対応がありました。

この背景には，日本国が自然遺産を管理するに当たって特に新たな制度などを作らず既存の関係行政機関の各種管理制度によって対処するとの方針があるからです。

(1) 屋久島世界遺産地域連絡会議の設置

ア. 世界遺産の適正な保全・管理推進を図るため，自然遺産に関係する国の三機関（林野庁，環境庁，文化庁）の現場機関である熊本営林局，九州地区国立公園・野生生物事務所，鹿児島県教育委員会及び地元の鹿児島県，上屋久町，屋久町で屋久島世界遺産地域連絡会議（以下「連絡会議」という。）が設置されました。

イ. 連絡会議は平成7年9月に設置されて以来年2回のペースで開催され，始めは平成7年11月に策定された屋久島世界遺産地域管理計画（以下「管理計画」という。）の意見集約の場として，その後は正に関係機関相互の連絡調整の場として開催されています。

ウ. 今回の調査団の来島に当たっては，管理計画に沿って実施されてきた各種の遺産地域保全等の措置を連絡会議名で「屋久島地域保全状況報告書」として作成し，調査団に提出しました。

(2) 管理計画の概要

管理計画は連絡会議等の意見を聞いて国の関係三庁で策定したもので，屋久島の世界遺産管理の基本的方針を明らかにしており，管理計画の目的には，「遺産地域の保全に係る各種制度を所管する関係行政機関が，相互に緊密な連携を図ることにより，遺産地域を適正かつ円滑に管理することを目的とし云々」と書かれています。

2. 今回の調査団のコメント

調査団からは以下のような評価や厳しいコメントもありました。これらのコメントは，よりよき屋久島の世界遺産管理のために参考にしていきたいと思っています。

- ① 管理計画に目標と期限の設定を
- ② 遺産地域にバッファゾーンの検討を
- ③ 遺産地域（島の二割）以外の島の地域との管理の連携を
- ④ 関連施設の整備，地図，パンフレットの充実は大いに評価
- ⑤ 縄文スギ歩道の劣化に対する対応を早急に
- ⑥ 西部林道は世界遺産として大変質の高いもの
- ⑦ ヤクスギランドは自然解説，森林教育，レクの場として最適
- ⑧ 林野庁と環境庁のパートナーシップの更なる強化を

台風19号時の雨量データ No. 2

先月号までにデータ回収できなかった大川、黒味、宮之浦観測点の雨量観測データが、回収できたので掲載します。

表の紙面で書いたように、大川観測点のデータで、15日の雨量が1106.5mm、14～16日の3日間の雨量が2251mmと淀川観測点の雨量を上回る数値がでました。ちなみに、降り始めから終わりまで（13～17日）の総雨量は2417.5mmにも達しています。

今回の台風では、島の西部地域に大きな被害が出ましたが、それを裏付ける結果となりました。

観測点名(標高)	14日	15日	16日	合計
大川観測点(1020m)	919.0mm	1106.5mm	225.5mm	2251.0mm
黒味観測点(1800m)	138.5mm	700.0mm	99.5mm	938.0mm
宮之浦観測点(500m)	247.5mm	726.0mm	400.0mm	1373.5mm

『洋上アルプス』裏面
屋久島森林環境保全センター